10日　土曜

マルコ

13:28 いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかくなって葉が出て来ると、夏が近いことが分かります。
13:29 同じように、これらのことが起こるのを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。
13:30 まことに、あなたがたに言います。これらのことがすべて起こるまでは、この時代が過ぎ去ることは決してありません。
13:31 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。
13:32 ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。父だけが知っておられます。
13:33 気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたは知らないからです。
13:34 それはちょうど、旅に出る人のようです。家を離れるとき、しもべたちそれぞれに、仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているように命じます。
13:35 ですから、目を覚ましていなさい。家の主人がいつ帰って来るのか、夕方なのか、夜中なのか、鶏の鳴くころなのか、明け方なのか、分からないからです。
13:36 主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見ることがないようにしなさい。
13:37 わたしがあなたがたに言っていることは、すべての人に言っているのです。目を覚ましていなさい。」

イエス様はイスラエルの苦難と終わりの日、また全人類の終わりの日について語ります。混同する感じを受けるかもしれませんが、両者は神の支配によって歴史が決定的に変わるという点では同じです。世界経済や政治や軍事力が変化しても、神様の大きなご計画は確実に起こるのです。第二次大戦後のイスラエル再興がその証であり、またその後のイスラルを取り巻く中東・世界情勢もまた聖書預言の延長線にあることがわかるでしょう。

イエス様は「戸口まで近づいていること知りなさい。」と言われ、また「その時がいつであるかは、だれも知りません。」とも言っておられます。近いけれども時はわかりません。ことは矛盾しません。いつであるかはわからないのだから、近いという緊張感をもって生きなさいということです。

イスラレルの終末も全人類の終末も神の決定的な時であります。また永遠の世界への決定的な前進でもあります。それは私たち個人の出来事も同じです。人生における決定的な出来事や、また地上生涯の終わりということにも、常に緊張感を持って備える必要があります。

いつまでも同じ状態は続かないこと、主のご計画のみが成ること、信仰を持って備える者は「仕事を割り当てられ」た「責任」を果たし、「しもべ」として、賞賛と報いをいただけるのです。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？